

# 一緒に生きる

学 校 名：大阪府立成美高等学校 指導時数：7時間  
名 前：播本 朱香（福祉・公民） 対象学年：高校1年生  
実践教科：現代社会 対象人数：249人

## 1. 教師海外研修を通して感じたこと

「持続可能」な開発・支援とは。それは先進国側からの一方的な考えであり、日本の経済成長における過ちを繰り返すことのないよう、理論を押し付けるもののように捉えていた。しかし、カンボジアは今も支援に頼らざるをえない現状にあると研修の中で改めて実感。地域のニーズに合わせ、地域の住民と関係を作り、継続して行えるということが「持続可能」には不可欠である。そして住民がそれぞれに得たものをカンボジア国内で伝え広げ、その結果、支援された側の自尊心をも高める、“横に広がる支援”こそが「協力」のひとつだと理解した。

研修を通して、現地で奮闘する日本人と、その思いを汲んで感謝してくれるカンボジアの人々、双方の想いを知れたことが一番の収穫となった。さらには各方面で「先生にお話できることが嬉しい」との言葉を頂いた。恐れ多い言葉だが、そのたびに教師という仕事のやりがいに気づかされた。特に、ご自身の辛い体験を語ってくださったチム・メイさんの言葉。「先生は、子どもたちに伝えてくれるから。」私たちは、形は違えど、チム・メイさんと同じ『伝える』使命をもっている。今回出会った様々な方の想いを、誠意をもって伝えるべきだと強く思う。

## 2. カリキュラム

### (1) 実践の目的・背景

「今」を共有し、同じ地球に暮らす様々な人がいることを知る。

本校では中国帰国生徒・外国人生徒特別選抜入試を実施しており、外国にルーツを持つ生徒が在籍する。国際社会に目を向けることで、彼らのルーツへの理解にもつなげる。

今年度の現代社会は『戦争と平和』をテーマとし、前期にて中国と中国残留孤児問題、豊かさとGDPを取り上げた。後期ではカンボジアを入り口に、開発途上国の現状と国際協力について取り上げる。カンボジア＝地雷・内戦・貧困・不十分な教育。イメージにはマイナスのものが多いが、実際に見たカンボジアは急速に発展している。様々な問題を抱えているとはいえ、それさえもプラスの力にかえる、大きな生命力があった。

同時に、辛い歴史と今も続く被害。日本の子どもたちにはイメージしがたいだろうが、「ありえない」それは「実際にある」ということ。誰の身にでも起こりうるということ。そしてチム・メイさんの「許しあう」という言葉、「共に生きる」という姿勢。これこそが地球に生きるわたしたちが目指す「共生」であると伝えたい。

今、まさに発展を遂げるカンボジアで、日本人がJICAや民間NGOで活躍している。協力のかたちを示し、生徒が自分にできることは何かを考えさせる。その結果、「日本に住んでいてよかった」「カンボジアに生まれなくてよかった」という答えではなく、それぞれに“足るを知る”こと、そして“少し分ける”という気持ちを自然に持つことを目的とする。

### (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2時限目 GDP“幸せ”って何？ * GDP指標を学び、各自の“幸せ”と国の“豊かさ”とは何かを考えさせる。	●各自、幸せとは何かを考えさせる。 ●GDP世界ランキングを確認 ●GDPの限界・GNH・NNWから個人と国の幸せ・豊かさについて考えさせる。	●教材プリント ●写真 (パワーポイント)

<b>3 時限目</b> カンボジアって知ってる？ カンボジアビンゴ!! *カンボジアに興味を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フォトランゲージと○×クイズ形式でビンゴクイズをする。</li> <li>● カンボジア学生のたいせつなものを紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 写真 (パワーポイント)</li> <li>● アンコールクッキー</li> </ul>
<b>4 時限目</b> 国旗でみるカンボジアの歴史 *カンボジアの歴史を7つの国旗から辿り、植民地・統治・内戦について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カンボジアの国旗に対応するフランス統治時代～現代までの時代を解説</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国旗の写真</li> <li>● 教材プリント</li> </ul>
<b>5 時限目</b> 地雷って見たことある？ *地雷の残虐性を学ぶ。今も続く被害が、戦争によるものだとして理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● モノランゲージで地雷模型を手取る。</li> <li>● 地雷原の写真を使って現状を説明</li> <li>● 地雷の概要と目的を説明</li> <li>● オタワ条約とその問題点を考察</li> <li>● 地雷撤去作業員の想いを紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地雷模型</li> <li>● Danger Mines 看板</li> <li>● 写真 (パワーポイント)</li> <li>● 教材プリント</li> </ul>
<b>6 時限目</b> 負の歴史とメッセージ *戦争がもたらす被害が今も続いていることを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 民主カンボジア時代の概要を説明</li> <li>● ツールスレン収容所、キリングフィールドを解説</li> <li>● チム・メイ氏のインタビュー動画を見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 写真 (パワーポイント)</li> <li>● 教材プリント</li> <li>● ビデオ</li> </ul>
<b>7 時限目</b> 自分たちにできること *自分の意見を確立し、多様な意見を知る。自分たちにできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 物乞いについてのディベート</li> <li>● カンボジアの物乞いの写真を見せ、解説</li> <li>● 今の自分ができることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 写真 (パワーポイント)</li> <li>● 教材プリント</li> </ul>

### 3. 授業の詳細

#### 1・2時限目：GDP “幸せ”って何？

ねらい…国際社会で国の経済規模・豊かさを比較するための指標を学ぶ。“幸せ”とは何か。各自の意見が他人と比較できるものなのかを考えさせる。

##### ◆内容◆

- ① 「あなたにとっての“幸せ”は何ですか」プリントに各自意見を書かせる。
- ② 授業プリントで、GDP 世界ランキング（2011 世界経済フォーラム）を確認。
- ③ 経済規模を比較する際の指標（GDP・GNP・NNP・NI）が国際的に国の“豊かさ”を比較するときに参考になることを説明。
- ④ GDP の限界を説明、GNH（ブータンの新聞記事）と NNW を紹介。
- ⑤ 「GDP が高いからといって、その国は“幸せ”“豊か”といえるのか」を発問、自分の“幸せ”を踏まえて考えるように、授業プリントに意見を書かせる。
- ⑥ 貧しい家庭でも客人に料理をふるまうフィリピンの写真を紹介。

生徒の感想

- ▶ GDP が高くても多くの日本人は幸せとっていない。
- ▶ ブータンやフィリピンのように、精神的な豊かさを持つ国もあるのなら、GDP だけでは豊かさはわからない。
- ▶ 幸せとは人それぞれで、比べるものではないと思う。

幸せ

好きな人と過ごすこと  
 おいしいものを食べること  
 友達と笑うこと  
 バスケットができること

◆所感◆

“難しい話”という構えの姿勢をいかに崩すかが課題であった。生徒は基礎知識も乏しく、「開発途上国って何？」という質問まであったため、開発途上国についてと精神的な豊かさについてフィリピンの写真もまじえて解説を加えた。「付加価値だけでは豊かさは計れない」とまでは理解に至ったが、途上国への興味を引き出せたかは疑問が残った。

### 3 時限目：カンボジアって知ってる？ カンボジアビンゴ!!

ねらい…カンボジアに興味を持つ。開発途上国に目を向ける。

◆内容◆

- ① 俳優：向井理とカンボジアの関係を説明。
- ② 各自 B 5 用紙に 9 マスのビンゴシートを作成、ランダムに 1～9 の数字を入れさせる。
- ③ カンボジアに関する問題をフォトランゲージと○×クイズで 9 問出題、ビンゴクイズを行う。



蛙をつかまえる道具



民家で調理中の蛙

かえる食べるん！？  
ひよこかわいそう！  
先生食べたん！？  
写真を見て大騒ぎ  
していました。

- ④ カンボジアで学生に書いてもらった、たいせつなものの絵を紹介。

◆所感◆

俳優：向井理を切り口にする事で、馴染みのないカンボジアにも興味を持ちやすかったようだ。クイズに使う写真は明るい雰囲気のものを中心に選択。今後の授業へとつながるよう、「日本の支援」「地雷」「内戦」のワードを入れた。

### 4 時限目：国旗でみるカンボジアの歴史

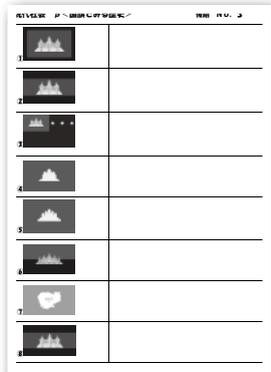
ねらい…カンボジアの歴史を、7つの国旗から辿る。植民地・統治・内戦について学ぶ。

◆内容◆

- ① カンボジアの国旗（赤・青・白）の説明。
- ② 授業プリントでカンボジアの国旗に対応する、フランス統治時代～現代時代を解説。

👉👉がポイント!

- ・国旗のアンコールワット・色には意味があり、国家や宗教が重んじられている。
- ・国旗変更の背景には政権交代と内戦が関係し、その一番の被害者は国民である。
- ・②と⑧の国旗が同じであることの意味を考えさせる。



◆所感◆

「Can you speak English?」と生徒へ問いかけると、大半の生徒は「No」と答えたが、それでも英語を理解しているという理由で収容された人もいることに驚愕していた。また植民地の学習で、以前満州について学んだことと結び付き、他国のことではないと感じていた。

## 5 時限目：地雷って見たことある？

ねらい…地雷の残虐性を学ぶ。

今も続く被害が、内戦によるものだとして理解させる。

### ◆内容◆

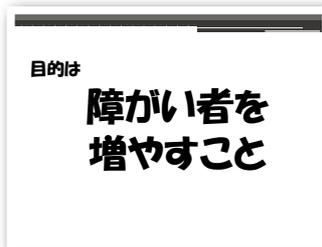
- ① 地雷模型でモノランゲージをする。
- ② カンボジア地雷原の写真を使って現状を説明。
- ③ 地雷の概要と目的を説明。
- ④ オタワ条約とその問題点を考察。
- ⑤ 地雷撤去作業員の想いを紹介。

👉👉がポイント!

地雷撤去作業員には、元軍人の方がいる。軍がなくなったため、地雷に対する知識が活かせるこの仕事に就いた。他に仕事がないという現実もあるが、猛暑の中地道な作業をされて国に貢献していることには変わりない。



地雷原を通る住民



地雷使用の目的



作業員の想い

### 生徒の感想

- ▶ 地雷がたくさんあって、国民は毎日怯えながら暮らしているだろうと思った。
- ▶ カンボジアの地雷の事は知っていたけれど、なぜ地雷を埋めたのかまで考えなかった。
- ▶ 実際に地雷模型を触って、あんなに小さいもので人が死んでいると思うとすごく怖い。
- ▶ 地雷を埋める理由が人を殺すためじゃなくて、障がい者を増やすためということにびっくりした。

### ◆所感◆

地雷模型の効果が大きく、触るだけでも不安になったという生徒もいた。地雷についてはインパクトが強く伝わりやすいが、同時に撤去作業員の想いを伝えることで、内戦時代の背景を考えさせるきっかけとした。生徒からは、「誰が埋めたのか」「どこで作られたのか」という発問があり、国内だけにとどまらない問題であることを感じたようだ。

## 6 時限目：負の歴史とメッセージ

ねらい…戦争がもたらす被害が今も続いていることを知る。

復興途中のカンボジアからの未来を見据えたメッセージを受けとる。

### ◆内容◆

- ① 3時限目で使用した国旗のプリントを復習。
- ② 1975～1979年、民主カンボジア時代の概要を説明。
- ③ ツールスレン収容所、キングフィールドについて写真とバン・ナット氏の絵を用いて解説。
- ④ チム・メイ氏のインタビュー動画を見せる。
- ⑤ 授業プリントに感想を書かせる。



チム・メイ氏の講演

👉👉がポイント!

ツールスレンで、拷問されながらも生き残ったチム・メイさんの「憎しみ合うのではなく、加害者も被害者も協力してカンボジアを作っていく」というメッセージ。

## 生徒の感想

- ▶ 自由を奪われ、人生を奪われた人がたくさんいるということがわかりました。チム・メイさんはこれからのカンボジアを考えていかなければならないという、しっかり現実をみている人でした。
- ▶ 被害者も加害者もカンボジアの人だということに驚いた。自分なら許すことができない。
- ▶ 先生や他の人から同じ話を聞いても“きれいごと”だと思うかもしれない。でも実際に被害者であるチム・メイさんの、被害者も加害者も協力してこれからのカンボジアを作っていくなくてはならないという話は心に響いた。
- ▶ 平和に暮らしている私たちは、命の大切さを重々分かっているわけではないのだと思った。
- ▶ 怖いとおもってしまうところもあったけど、世界で実際にあったことで、私たちも知らなければならぬと思いました。

## ◆所感◆

「悲しい」「怖い」というイメージだけが残らないよう配慮した。史実とともに、そこには前を向いて生きるカンボジアの国民がいることも伝えると、自発的に「自分にできることはあるのか」と考える生徒がでてきた。

## 7 時限目：自分たちにできること

ねらい…国際協力には様々な視点が必要だと知る。自分の意見を確認し、多様な意見を知る。  
自分たちにできることは何かを考える。

## ◆内容◆

### ① 「物乞いの子どもに出会ったら」ディベート

- ★ 日本と比べて経済的に貧しい国で、子どもが物乞いをしています。  
あなたなら、その子どもにお金やお菓子を・・・

#### あげると答えた生徒の意見

余裕があればあげる。かわいそう。  
同じ人間だから助けたい。  
自分の方が持っていたら、苦しんでいる人を見て助けてあげたいと思う。

#### あげないと答えた生徒の意見

甘えて物乞いを繰り返す。  
一回あげてしまうとそれに慣れてしまう。  
あげるとしても、一部の人にしかあげられない。

- ② カンボジアの物乞いの写真を見せ、地雷や内戦の背景があること、物乞いがビジネス化している場合もあることを説明。
- ③ ディベートの後、自分の意見に変化はあるかを問う。

#### 👉👉がポイント!

ディベートに答えはないが、目の前の人を助けてあげたい気持ちと、全体を考えて一部だけ助けられないという気持ち、そのどちらも根底には『助けたい』という想いからくるものでは、と投げかけた。

- 募金 • ボランティア
- 寄付 • 観光
- カンボジアのものを買う。
- カンボジアの事を他の人達にもっと知ってもらおう。

- ④ これまで勉強してきたカンボジアという国に、今の自分が出来ることは何かを考える。

## 生徒の感想

- ▶ ディベートをして、自分の意見は変わらなかったけど、反対意見もよく分かった。
- ▶ 出来ることがあればしたい。今の自分じゃ何もできないと思う。
- ▶ 数人に対する一時的な援助にならずに、全ての人に対等に援助をするべき。
- ▶ 自分一人ではできることは限られても、たくさんの人がいれば変わる。人の力って大切だと思った。
- ▶ どうすればいいのかを考えていたけれど、まず出来ることは、カンボジアのようにしないこと。そして生きようとする意志を強くもつことが大切だと思います。



出会ったこども



小学生



大学生



生徒が書いた「たいせつなもの」  
クメール語を調べて、オークン  
(ありがとう)と書いてくれました。



日本とカンボジアの国旗が描か  
れています。

## ◆所感◆

まずは「今の自分にできること」。それが何かはわからなくても、知る・関心を持つことが第一歩だと感じてくれる生徒が回を重ねるごとに増えた。ODA・NGOの紹介までは至っておらず具体的な方法まで考えさせることができなかった。

## 4. 成果と課題

カンボジア国内で幾度と、古代シンボル「生命の木」のモチーフを見かけた。生命力溢れるカンボジアにまさに当てはまるイメージで、今回そのイメージをそのまま生徒に伝えたいと考えていた。また、研修で出会った方々から受けとった想いを、誠意をもって伝えられるだろうかというプレッシャーもあり、研修での情報量の多さに消化不良の日々も続いた。

しかし授業を始めてみると、生徒は考えていたよりも素直で、単純で、カンボジアに興味を持った。「カンボジア行ってみたい」と言っていたかと思えば「怖い、行きたくない」「日本に生まれてよかった」と予想通りの反応も見せた。進めるにつれて、感想のなかで「カンボジアに対して自分が出来ることは何だろうか」と自ら考えた生徒が出てきたこと、「何よりも“知る”ことが大切」と実感する生徒が増えたことは何よりの成果である。

今回は国際協力の第一歩として、“世界の現状を知る”“足るを知る”ことを目標に授業を進めてきた。自発的に考える生徒も出てきてはいるが、やはり他人事とする生徒も多い。また、自己評価の低い生徒は自分たちに何かが出来るという発想がない。知ることが出来たその先は、『行動する一歩』を踏みだすため、そのひと押しができるような具体的な授業を目指す。南北問題で開発途上国についてより理解を深め、ODA・NGO・フェアトレードを取り上げ、開発教育を続けていきたい。

参考文献 「アキ・ラの地雷博物館とこどもたち／アキ・ラー」三省堂  
「ぼくたちは世界を変えることができない／葉田甲太」PARADE BOOKS

参考ホームページ URL 愛知県国際交流協会 国際理解教育教材「わたしたちの地球と未来」カンボジア  
<http://www2.aia.pref.aichi.jp/topj/indexj.html>